

1 構成案について

- ・ 従来の教育振興基本計画は、行政が主体となって区民にサービスを提供することを示すものが多かったが、今回の教育ビジョンは、区民の皆さんが我が事としてビジョンを受け止め、自分たちで杉並の教育をつくっていくという方向性を示すものとする。
- ・ 新ビジョンには「背景・趣旨」、「キャッチフレーズ」、「尊重すべき価値」、「基本方針・視点」を重点的に書き込み、行政の「ミッション」、「施策の方向性」については、教育行政の行動計画である「教育ビジョン推進計画」に移す、という案としている。
- ・ これまでにはない斬新な知見が「Ⅰ杉並の教育が尊重すべき価値」「Ⅱ基本方針・視点」に書き込まれていくことになると思うが、私はこの構成案でよいと思う。
- ・ 基本的にはこの構成でよい。ビジョン推進計画とビジョンの整合性を見る機会があってもよい。
- ・ ビジョンの最後に、行政のミッションと施策の方向性に向けた意見のようなものを書き込んでおくのはどうか。
- ・ 区民が主役になるための仕組みづくりは行政や教職員の役割であるといったことなどを、策定の趣旨のところに書き込めないか。
- ・ 方向性には大賛成。担い手として、学校や教育委員会はこの内容ですっと落ちると思うが、家庭・地域の方に、審議会で議論したものを理解・共有していただくための取組を丁寧に行うことも検討する必要がある。
- ・ 構成案としてはわかりやすい。「区民が主役になる」は大事なことだが、すごく難しい。やるからにはいろんな声を拾っていく必要がある。
- ・ 区民の方にも自分たちが主役、ということを理解してもらえよう伝えていく必要がある。区民自身が日常生活の中で楽しみながら、みんなが子どもたちの成長を支える、区民自身が楽しく学びながら人生を続けていくといったことを普及できるようなものにしていきたい。
- ・ いい構成案だと思う。
- ・ 今までのビジョンに比べて抽象的、理念的であることは否めない。そうした変更のねらいについて、区民に対しわかりやすく示す必要がある。
- ・ これまでのものとは違う構成であり、理念的なものになるので、わかりやすく書くということが必要。今までのスタイルを変えることは力が要るが、新しい時代に向けて社会が大きく変わる中で従来型の教育では対応できなくなっている。
- ・ 非常にわかりやすい構成だと思う。「区民が主役」ということを冒頭に明記してほしい。
- ・ 大人も子どもも本来それぞれが自分の人生の主役である。
- ・ 区民が行政サービスとして教育を要求するだけでなく、区民自身が教育というものを自分事として、互いに保障しあい認めあうことが基本であるということを出すべきである。教育や学びを、一面では区民が自分たちで創り出し、また一面では行政が支えていく。自らの人生を全うしていくという形にしたい。主役とはそういうことで、趣旨の部分に書き込めればと思う。
- ・ 区民がサービスを求めるだけではない、というところはポイントかと思う。
- ・ 区民が主役というより、私事(わたくしごと)として自身が動くことで未来は明るく開けていく、といった明るい表現が、背景・趣旨に盛り込んでもらえると、よりビジョンを共有できるのでは

ないか。

- education for allではなく education by all にしていく必要がある。価値観が多様化する中、行政が一元的に価値を保障することは困難になっている。行政がやる仕事は、誰も取り残さないというプラットフォームの整備。みんなで学びの機会を保障しあい、つくりあっていく。否定しない関係を作っていく。理念的だが、そうしたことをここで打ち出せないかと思っている。
- 理念を共有するビジョンと、行政としての行動計画であるビジョン推進計画とに分けて整理することは理解した。

○結論・方向性

- 構成案：了承
- 「背景・趣旨」に、考え方の転換があったことや、区民が主役として教育をつくる主体であること、それを受けて「尊重すべき価値」、「基本方針・視点」が書かれ、最後に、行政に対し「ミッション」と「施策の方向性」を書き込む

2 骨子案について

- 「縦のつながり」を意識した文言が入れられないか。杉並に生まれた子どもを就学前の段階から地域みんなが見守っていくことを「Ⅰ価値」と「Ⅱ基本方針」5あたりに入れられないか。また、ここでいう「学校」の定義として、「Ⅳ施策の方向性」と同様に表記してもらえるとよい。いわゆる保育、幼児教育からいわゆる教科学習（小学校教育）につながっているということも入れたい。
- 「学び」の定義について。「Ⅱ基本方針」5で「学び」を贈り合うとあるが、「学び」の定義は個人によって違うので混乱をきたすのではないか。とても広い意味での「学び」と思われるため、そこを深めていく必要があると思う。
- 学習指導要領も就学前からの15年間一貫教育を前提として作られている。就学前からの一貫した学びの保障をどこかに入れ込めないか。
- 保育の現場では生活を中心に学びを重ねていくため、障害のある子どもグレーゾーンの子もちがいを認めあやすい。しかし、小学校に上がるとその子にとって大切なものが積み重なっていかないといった現状がある。
- 幼保小の連携等、カリキュラムの接続だけではなく、人間として育てたいものとして何を大事にするかを議論できるような現場にしていけるビジョンになるとよい。
- キャッチフレーズ案の「ちがいを認めあい、誰をも大切に」というのは「Ⅰ尊重すべき価値」に落とし込み、キャッチフレーズは誰もが杉並の教育のことを言っているとわかるような文言があればよいと思う。
- 骨子案の理念は正しいと思う。現在のキャッチフレーズ案は、目指すこととしては正しいが、課題前提的であり前向きなイメージがやや薄い。これまでの「共に学び共に支え共に創る～」のような夢を語る印象のキャッチフレーズにしたい。プラス志向の表現にしたい。
- キャッチフレーズ案の「誰をも大切に」というのは非常にいい。全体を通して、理解しあう、認めあうということが非常に大事と思われる。そのためにもコミュニケーションが大切。
- 文言は全体的にはいいと思う。そこに込められたものを共有できればよい。キャッチフレーズの

「ちがいを認める」、「誰をも大切にする」という文言は後半に落とし込めないか。

- ・ 「誰一人取り残さない」というのはSDGsのメッセージでもあるので外せない。主人公や主役になる、という言葉はなくてもよいかと個人的には思う。
- ・ 今の「共に学び共に支え共に創る」のようにもう少しわかりやすいほうがいい。杉並に住む誰もが聞いてすぐに想像できる、伝えていけるもの、みんながわかりやすいものがないのでは。
- ・ 基本構想での中学生アンケートから言葉を拾えないか。子どもの言葉を重視していくのはどうか。
- ・ 「Ⅱ基本方針」2の説明について、個に応じた学びの推進が、子どもたちの発達に応じた分断につながらないように言葉を選んでいきたい。
- ・ 「Ⅱ基本方針」2について、個別のニーズに応じた教育のあり方をどうするか。GIGAスクールの発想も今の経済界の考え方も、知を独占せず共有する関係の中で社会を創っていかないと、この社会は発展していかないといい始めている。お互いに共有しあうという関係の中で一緒に社会をつくっていく方向にいかないとこれから大変になっていく。インクルーシブの考え方も社会全体の価値観にしていかななくてはいけない。そうなると、学校という制度を組み替えていくことも問われてくるだろう。今回はビジョンなのでそこまで書き込むことはないかもしれないが、理念的な部分は組み込んでいきたい。
- ・ 「Ⅰ価値」②の「よりよく」だと、今の自分自身を受け止めていないのではないかと、という印象がある。「自分らしく生きる」等に変えてはどうか。
- ・ 中学生の声を生かすという考えは大事だと思う。
- ・ 中学生が、声を吸い上げられたということについて何らかの形で実感が持てると、これからの人生でもどんどん意見を表明したくなるのでは。
- ・ By all という立場でビジョンづくりに取り組めていければいいと思う。
- ・ 「Ⅱ基本方針、視点」の文言はこれでいいと思う。「学び」の定義づけは大事。
- ・ 「Ⅱ基本方針」1で子どもの権利条約、障害者の権利条約のことは入れてほしい。学習者主体というフレーズが出ているが、その説明に選択、選択肢のある学びということを入れてほしい。合理的配慮も選択に入ってくる。
- ・ インクルーシブは「Ⅱ基本方針」全てに関連がある。また、「Ⅱ基本方針」5の「学びを贈りあい」の「あい」という言葉は対等性を示している言葉であり、これが先生と子どもたちの間で定着するとよい。交流及び協働学習で共有する、贈りあうという関係性を落とし込んでほしい。生涯学習について、いろんな人が参加するインクルーシブな生涯学習の場を行政が作り出すのではなく、みんなで創っていく動きを行政がバックアップするような内容を入れ込んでほしい。
- ・ 「Ⅱ基本方針」3に「ファシリテーション」を入れてほしい。今後、欠かせないキーワードになる。
- ・ インクルーシブという概念は、5つの基本方針の中で構造化して出せるとよいと思った。
- ・ 学びの定義付けの話もあったが、学び合う、教え合う、一緒になって探求し合う、驚いて共感するといったことを少しイメージできればと思っている。障害のみならず、ジェンダー、文化、国籍等の違いを乗り越えながら一緒にやっていくといった視点も書き込めればと思っている。
- ・ 「センス・オブ・ワンダー」の要素が少し薄れている印象。
- ・ 中学生アンケートから、生きとし生けるものへの感性を中学生が持っていることに感動を感じる。

自然のことを考えることもどこかに入れたい。

- ・ 中学生アンケートはすごいと思う。回答の文言の裏で、どういう考えで書いたのか、そういったことに思いを巡らせたい。
- ・ 誰もが社会の当事者として、学びをつなぐ、といったことも含めて、想像力を働かせあう、相手を慮るということなどもうまく書き込めたらいい。
- ・ キャッチフレーズの大切さ。やはり 10 年間、色あせないプラス志向の文言がいい。当事者の小中学生が読んだときに、成長するうえで何に留意して生きていくべきか目安、道標になるようなビジョンであってほしい。
- ・ 担い手に、子どもたちも含むことをきっちり書くことも大事。
- ・ 中学生の言葉を拾ってキャッチフレーズにも使っていくのが良い。
- ・ 小中学生でもわかりやすいような教育ビジョンになればよい。「自治」「権利」「尊重」といった言葉についても、子どもたちにもわかりやすい言葉がよい。
- ・ どんな新しい教育が始まっていくのかわくわくできるようなキャッチフレーズが良い。中学生の素直な気持ちが反映された教育ビジョンになれば、地域の人にもわかりやすい。誰が見てもわかりやすい、というのは大切。具体案は、推進計画に盛り込めばよい。
- ・ 区民が見て、「おっ」と思ってもらえるキャッチフレーズに。例えば、「つながる、つくる、くらしのしむまち〇〇」をキャッチフレーズにした自治体の総合計画がある。「区民が」とあえて出さなくてもわかるようなものがよい。
- ・ キャッチフレーズについて、対象が広いため抽象的になってしまう。子どもが困っていること、悩んでいることをどう解決できるかといったことが明確に打ち出せればよいが。
- ・ 今回のビジョンは普遍的な価値を掲げることを目指している。ビジョンが目指すものを焦点化していく。

○結論・方向性

- ・ 骨子案について、柱の文言を含めまだ議論していかななくてはいけない状況であるため、委員の皆さんと意見のやり取りを行う機会を 5 月 27 日より前に設けたい。

以 上